療法名　**術後S-1/DTX**

適応　胃癌

抗癌剤適応分類　術後補助化学療法

第3版	2025年1月改訂
登録番号	胃-15
登録年月日	2019年9月

投与順	抗癌剤名（一般名）	【略語】	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	**ドセタキセル** （ドセタキセル）	DTX	40mg/㎡ **※2～7コースのみ**	点滴静注	1時間	d1
2	**エスワンタイホウ®** （テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム）	S－1	80mg/㎡(※1)	経口	朝・夕食後	d1～14 8コース以降は28まで

	day	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21									
DTX	40mg/㎡	↓																													
S－1	80mg/㎡(※1)	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓																

1コース期間 （次のコースまでの標準期間）	1～7コース：3週間 8～12コース：6週間（8～12コースは状況に応じて3週間に変更可能）
総コース数	11又は12コース　手術後1年まで
コース間での休薬規定	チェックリスト参照

減量規定・中止基準	①好中球数1000/mm3以下②血小板数75000/mm3以下③AST、ALT100IU/L以上④血中ビリルビン1.5mg/dL以上⑤血清クレアチニン1.2mg/dL以上⑥Grade2以上の消化器症状
投与量の増量規定	なし
投与間隔の短縮規定	8コース以降のS-1単剤は前コースまでの副作用発現状況に応じて2投1休に短縮可能
コースによる変化	なし
1日の中での抗癌剤投与順	DTX→S-1(投与日夕食後から開始)
プレメディケーション	デキサメタゾン注6.6mg

主な副作用とその対策	DTXによる浮腫予防のため、デキサメタゾン（1回4mgを1日2回経口投与、又は相当量のコルチコステロイド）を投与を検討
患者条件	チェックリスト参照
除外規定	チェックリスト参照
実施上の注意点	特になし　（当院で使用しているドセタキセルはアルコール非含有製剤）

備考	胃癌術後補助化学療法における標準療法のひとつ。
治療成績	根治切除後Stage Ⅲ胃癌に対する、術後補助化学療法としてのS-1群に対するS-1＋DTX併用群の優越性を検証した第Ⅲ相試験（JACCRO GC-07）試験の主要評価項目である3年無再発（RFS）生存割合は、S-1＋DTX群の65.9%に対してS-1群では49.5%（p＝0.0007）とS-1＋DTX群で有意に良好であったことから、2017年9月をもって当該試験は有効中止となっている。サブグループ解析では、年齢や性別、pStage（ⅢA/ⅢB/ⅢC）などの特定の集団との明らかな交互作用は認めなかった。5年全生存期間（OS）率はS-1療法群60.27%、DS療法群67.91%であり、ハザード比（HR）0.752（95%CI 0.613-0.922）と有意差が認められた。pStage ⅢAでは72.21% vs 81.80%（同0.573、0.357-0.921）、pStage ⅢBでは66.42% vs 66.14%（同0.915、0.652-1.284）、pStage ⅢCでは41.81% vs 56.14%（同0.706、0.520-0.958）であった。
その他	※1　S-1は体表面積に合わせて初回投与量を調節する。 1.25m2未満→80mg/day　1.25～1.5m2→100mg/day　1.5m2以上→120mg/day 投与2回目以降は減量規定に合わせて投与量を調節する。

参考文献
医学書院　癌薬物療法ガイド　レジメン+薬剤情報
大鵬薬品　TS-1適正使用ガイド
抗がん剤調製マニュアル　第3版
JACCRO GC-07(START-2) PROTOCOL